

## 『2014 カデ&ジュニアアジア選手権結果報告』

第9日目/3月16日(日)

《団体戦》

【ジュニア女子サーブル】

<最終結果 1位~3位> 8ヶ国参加

- 1位 カザフスタン
- 2位 中国
- 3位 日本
- 3位 タイ

<日本選手>

- 朝居由紀 (中京大学)
- 佐々木陽菜 (福島県立成蹊高等学校)
- 脇田樹魅 (JOC エリートアカデミー/帝京高等学校)
- 鳴海 葵 (同志社大学)

<T8>

日本 V45 対 38 イラン

<セミファイナル>

日本 41 対 V45 中国/日本-敗退

「総括」

T8からのスタートで初戦はイランと対戦した。序盤から特に危なげなく点差を広げていたが6セット目でエース佐々木が突如冷静さを失い連続ポイントを許してしまう。その後、鳴海はなんとか踏ん張ったが朝居は点差を詰められ3点リードで9セット目を向かえた。佐々木は先ほどの反省を活かし、相手エースに気持ちを入れ替え勢いのある動きを取り戻した。試合前に伝えていた狙いも上手く実行に移し辛くも勝利した。

準決勝は1番シードの中国と対戦した。

4セットを終え8本差付けられる苦しい展開であったが、5セット目で佐々木が相手の3番手に対して良いアタックを何本も決め大逆転をする。その勢いのまま一気に試合を決めたい所ではあったが、朝居が個人戦優勝者に1点も取れず大きく点差を広げられてしまい佐々木の追い上げも届かず敗退となった。脇田については数日前からの体調不良が回復はしてきていたが万全でない事を考慮し起用は控える形となった。

この2試合を通して感じたことは全員が精神的に弱い部分が多く見受けられた事である。良い流れで試合を進められていても、一人が崩れるとその雰囲気連鎖してしまい下を向いてしまう場面が多々あった。今後このような国際大会をもっと経験し、場慣れしていく事が必要だと感じた。戦術の部分では、自分のイメージだけで精一杯になるのではなく、相手の狙いや癖まで注意を払いそれに応じた策を考える習慣を身につけなくてはならない。

帰国後、それぞれの所属に別れての練習になるが、この大会で経験した事を次の試合にぜひ活かしてもらいたい。サーブルコーチ/小川 聡

### 【ジュニア女子エペ】

<最終結果/1位～3位>12ヶ国参加

- 1位 中国
- 2位 香港
- 3位 日本
- 3位 シンガポール

<日本選手>

- 山根 司 (早稲田大学)
- 上田果歩 (長野県立伊那北高等学校)
- 古俣潮里 (新潟高等学校)
- 池田五月 (法政大学)

<T8> (T16はシード)

日本 V45 対 34 ウズベキスタン

<セミファイナル>

日本 43 対 V45 香港/日本-敗退

### 「総括」

試合前はポイントレッスンや軽めのファイティングで調整を行った。また夜のミーティングで、各自の役割や戦術を明確にして試合に臨んだ。6位シードの台北が11位のウズベキスタンに敗退しメダルをかけた初戦はウズベキスタンとの対戦となった。山根が0-0で終わり池田がエースに10-9で勝利し古俣が11-15でリードを奪った。前日の打ち合わせ通り最初の周りで古俣が得点を取り、それを守りきる作戦が見事に成功した。結果は45-27の大差であった。

準決勝は香港との対戦で、香港のLIMに池田、古俣が個人戦で敗れているため、そこをどう凌ぐかが勝負となった。最初の周りは山根が-2点、池田が-1点、古俣が-2点となり5点差を追う事になった。2周り池田対LIMで更に2点差をつけられ計7点差がついた。しかし、池田が-2点で抑えた事はとても大きい。続く山根、上田が4点詰め最後周りの池田が追加の2点で29対27となった。上田対LIMここは無理に点を取りに行かずラストに繋ぎたかったが37対27になってしまった。取りに行くしか無い場面で山根は44対43と一点差まで迫るが逃げ切られてしまった。

全体を通して各自の役割はきちりと果たせていた。団体戦の経験が少ない上田もプレッシャーの係る中最後から2番目というポジションを良く戦ったと思う。上田は来年、再来年もあるので、今回の経験を次に活かして欲しい。また、今度の世界ジュニアに向けて各自課題が見えたので合宿を通して強化して行きたい。エペコーチ/山本迪也

### 【ジュニア男子フルーレ】

<最終結果/1位～3位、日本結果>14ヶ国参加

- 1位 香港
- 2位 日本

3位 中国

3位 シンガポール

<日本選手>

- 伊藤 真 (日本大学)
- 大石利樹 (中央大学)
- 簾内長仁 (日本大学)
- 船本宗一郎 (熊本県立翔陽高等学校)

<T8> (T16 はシード)

日本 V45 対 22 チャイニーズタイペイ

<セミファイナル>

日本 V45 対 39 中国

<ファイナル>

日本 26 対 V45 中国

「総括」

本日男子フルーレジュニア団体が行われた。初戦台湾戦は途中簾内と伊藤が交代するが、4名とも問題なく試合を行い快勝した。

準決勝中国戦では、個人戦で戦った知識を出し合い、連続で点数を取られないように注意して試合に臨んだ。試合中も出場した選手全員が集中し僅差にて勝利した。

決勝香港戦でも同じく、個人戦の状況を吟味し臨んだが、遠い間合いからの長い攻撃を止める事ができず得点を重ねられ敗退した。男子フルーレジュニア団体は準優勝銀メダルを獲得した。

準決勝、決勝ともに最後まで戦い抜けた試合であった。

今後は突き方のテクニックを今以上に身につけるとともに、食事等の生活面も含めトータルトレーニングに努めていきたい。監督兼フルーレコーチ/岡崎直人